



品種育成の現況とゆくえ

講演

【講演1】15:00 ~ 15:50

「重イオンビームを用いた環境変化に対応する品種の育成について」 理化学研究所 仁科加速器科学研究センター イオン育種研究開発室 室長 阿部知子氏

環境変化への対応や食糧生産に対する課題解決に向け、要素の1つである品種育成は「任せる」から「情熱を持って創る」へと変化しています。理化学研究所(理研)は、核物理学のための重イオン加速器を使用した品種改良技術を開発し、パートナー企業とともに植物や微生物での実用化に務め、その結果、FAO/IAEAのMutation Breeding Networkの一翼を担う技術となりました。生物の多様性を拡げる技術として理解を深めることは、食品産業の持続可能性を考える上で重要です。

<プロフィール>

東北大学大学院農学研究科修了後、東北大学と理研でのポスドクを経て、理研の定年制研究員となる。理研には世界に誇る重イオン加速器施設があり、お花見がご縁で重イオンビームによる品種改良法の研究開発に没入すること。実用化品種は、現在、植物40種、酵母3種。2007年文部科学大臣表彰科学技術賞、2009年産学官連携功労者表彰文部科学大臣賞、2013年日本植物学会特別賞(技術)、2021年Women in Plant Mutation Breeding Award (Joint FAO/IAEA Centre)、2022年日本育種学会賞、2023年安藤百福賞優秀賞などを受賞。

【講演2】15:55 ~ 16:45

「食の新たな付加価値は品種から生まれる—品種改良と食文化の融合」 品種ナビゲーター 竹下大学氏

日本は高品質・高付加価値食品の開発・輸出を推進していますが、その価値の源泉である品種改良の歴史は十分に共有されていません。さらに「食」と「農」の間には依然として壁が存在しています。食品業界と種苗業界(農業界)が連携することで、この壁を越え、消費者に新たな価値を届けられる可能性があります。品種改良の物語が、食品業界と食文化に与える効果とその方法を探ります。

<プロフィール>

1989年千葉大学園芸学部卒業後、キリンビールに入社。新規事業としてゼロから花の育種プログラムを立ち上げ、同社アグリバイオ事業随一の高収益ビジネスモデルを確立。2004年には、All-America Selectionsが北米の園芸産業発展に貢献した育種家に贈る「ブリーダーズカップ」の初代受賞者に、ただひとり選ばれる。技術士(農業部門)。

著書に『日本の果物はすごい 戦国から現代、世を動かした魅惑の味わい』(中央公論新社)、『日本の品種はすごい うまい植物をめぐる物語』(中央公論新社)、『野菜と果物すごい品種図鑑』(エクスナレッジ)等。

【質疑】15:55 ~ 16:45

◆本セミナー推薦 企画委員 : 理研ビタミン株式会社、味の素株式会社

日 時 : 2026年5月26日(火) 15:00~17:00

会 場 : 日本食糧新聞社「食情報館」(東京都中央区入船3-2-10 アーバンネット入船ビル4階)

参加費 : 食品産業文化振興会 会員企業 : 無料

プレ会員 : 16,500円(税込、1企業あたり複数名受講可) ◇お申込後、ご請求書を発行致します

日本食糧新聞社・食品産業文化振興会事務局

電話 03-3537-1310 FAX 03-3537-1071

〒104-0042 東京都中央区入船3-2-10 アーバンネット入船ビル5階

食品産業文化振興会(5月26日)申込書

FAX03-3537-1071までお申込みください。

御社名			
住所		〒	
TEL/FAX		/	
○印	部署/お役職	お名前	E-Mail
来場/ Web			
来場/ Web			
来場/ Web			

※会員形態を選択してください 正会員 準会員 プレ会員

- ◆下記サイトからもお申込み可能です
(来場受講・Web受講)
- ◆開催後アーカイブ化(90日間)。 閲覧希望者は
下記『[セミナー申込フォーム](#)』よりお申込み下さい

セミナー申込フォーム
(<https://bit.ly/3PBGKpn>)

Web受講用申込サイト
※Zoom申込に移動します



食情報館<入船>



東京都中央区入船3-2-10アーバンネット入船ビル4階
TEL:03-3537-1310

<最寄駅>

東京メトロ 有楽町線 新富町駅 7番出口 徒歩1分
東京メトロ 日比谷線 築地駅 3a出口 徒歩5分

次回ご案内

2026年6月度定例セミナー
決定次第ご案内いたします

【セミナー予定表】

